

■東京盃 (JpnII) アラカルト (過去 56 回の分析)

- ※第 6 回 (昭和 47 年) は「NET 盃」の名称で実施
- ※第 29 回 (平成 7 年) からは指定交流競走として実施
- ※第 31 回 (平成 9 年) からはダートグレード競走として実施
- ※第 20 回 (昭和 61 年) は内回りコースで実施
- ※第 36 回 (平成 14 年) から第 37 回 (平成 15 年) までは 1,190m で実施
- ※第 16 回 (昭和 57 年) は 2 頭が同票数で単勝 2 番人気だったため、単勝 2 番人気馬は 56 頭、単勝 3 番人気馬は 54 頭
- ※記録は令和 5 年 9 月 20 日時点

■ 1~3 番人気馬の 3 着内率がほぼ同じ

単勝 1 番人気馬は 18 勝、2 着 8 回、3 着 6 回で、3 着内率が 57.1%、単勝 2 番人気馬は 12 勝、2 着 9 回、3 着 10 回で、3 着内率が 55.4%、単勝 3 番人気馬は 12 勝、2 着 9 回、3 着 10 回で、3 着内率が 55.4%となっている。単勝 1~3 番人気馬の 3 着内率にほとんど差がないレースだ。

■ 上位人気馬が 1~3 着を占めた例は 12 回

過去 56 回のうち 42 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を取めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 18 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 12 回ある。

■ 複数回の優勝経験がある馬は 7 頭、“連覇”は 6 頭

東京盃において複数回の優勝経験があるのは、第 11 回 (昭和 52 年) と第 12 回 (昭和 53 年) を制したトドロキヒリュウ、第 17 回 (昭和 58 年) と第 18 回 (昭和 59 年) を制したスズユウ、第 21 回 (昭和 62 年) と第 25 回 (平成 3 年) を制したテツノヒリュウ、第 28 回 (平成 6 年) と第 29 回 (平成 7 年) を制したサクラハイスピード、第 31 回 (平成 9 年) と第 32 回 (平成 10 年) を制したカガヤキローマン、第 40 回 (平成 18 年) と第 41 回 (平成 19 年) を制したリミットレスビッド、第 51 回 (平成 29 年) と第 52 回 (平成 30 年) を制したキタサンミカヅキの 7 頭である。なお、このうちテツノヒリュウを除く 6 頭は 2 回連続の優勝だ。

■優勝馬のおよそ3分の2が5歳以下

馬齢別の勝利数を見ると、3歳が10勝、4歳が11勝、5歳が16勝、6歳が9勝、7歳が6勝、8歳が3勝、9歳が1勝となっている。幅広い世代から優勝馬が出ているものの、全体の66.1%は3～5歳の比較的若い世代だ。

■牝馬は10勝、外国産馬は5勝

牝馬の優勝例は第2回（昭和43年）のオリコ、第8回（昭和49年）のイナリトウザイ、第9回（昭和50年）のオサイチテユダ、第14回（昭和55年）のカオルダケ、第16回（昭和57年）のレイクルイーズ、第22回（昭和63年）のイーグルシヤトー、第30回（平成8年）のトキオクラフティー、第34回（平成12年）のベラミロード、第36回（平成14年）のインアイン、第46回（平成24年）のラブミーチャンと、計10回ある。また、外国産馬の優勝例は第30回（平成8年）のトキオクラフティー、第35回（平成13年）のノボジャック、第45回（平成23年）のスーニ、第49回（平成27年）のダノンレジェンド、第53回（令和元年）のコパノキッキングと、計5回ある。なお、優勝を果たした外国産馬5頭はいずれもアメリカで生産された馬だ。

■3着内馬のおよそ3分の2はJRA所属馬

指定交流競走となった第29回（平成7年）以降の計28回に限ると、地方所属馬は11勝、2着8回、3着8回、JRA所属馬は17勝、2着20回、3着20回となっている。3着以内馬延べ84頭のうち、32.1%が地方所属馬、67.9%がJRA所属馬だ。なお、地方所属馬によるワンツーフィニッシュ決着は第31回（平成9年）、第42回（平成20年）、第51回（平成29年）の計3回、JRA所属馬によるワンツーフィニッシュ決着は第35回（平成13年）、第38回（平成16年）、第39回（平成17年）、第40回（平成18年）、第41回（平成19年）、第43回（平成21年）、第47回（平成25年）、第48回（平成26年）、第49回（平成27年）、第50回（平成28年）、第55回（令和3年）、第56回（令和4年）の計12回となっている。

■騎手別の歴代最多勝記録は「4」

騎手別の勝利数を見ると、佐々木竹見騎手、高橋三郎騎手が4勝でトップタイ。内田博幸騎手、佐藤隆騎手が3勝で3位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、3勝の加用正調教師が単独トップ。朝倉文四郎調教師、大山未治調教師、岡部猛調教師、川島正行調教師、佐藤賢二調教師、須田明雄調教師、高橋三郎調教師、高柳恒男調教師、武森辰己調教師、村山明調教師、森秀行調教師、矢作芳人調教師が2勝で2位タイとなっている。

■ 1番から16番まですべての馬番が優勝例あり

枠番別の勝利数を見ると、8枠（10勝）が単独トップ。2枠（9勝）が単独2位、3枠（8勝）が単独3位、1枠と5枠（各7勝）が4位タイとなっている。また、馬番別の勝利数を見ると、3番（9勝）が単独トップ。1番（7勝）が単独2位、6番（6勝）が単独3位である。なお、未勝利の枠番ならびに馬番はない。

<伊吹雅也>